

自然災害からの教訓

■ 7月を待たずに梅雨が明けた頃から、日本列島は異常高温気象。また台風や地震の被害に度々見舞われました。いずれの災害もいまだ記憶に生々しく残っています。災害には原因があり、大災害が発生・拡大した事にも必ず原因があります。それが地球の活動の一端であったり、地理的あるいは地形や地質的な条件に関係して大災害を引き起こしたりと様々です。また、防災上の対応や判断が原因で大きな被害を起こしてしまっただけでもありません。私たちが永年暮らしてきた場所でも、これまで起こらなかった自然災害が発生しています。「想定をはるかに超える・・・」、「かつて経験した事の無い規模で・・・」、「誰も予測しえなかった・・・」等々、私たちは経験や常識が覆される現実を目の当たりにしました。

■ これらの災害から得た教訓は、「災害時用に日頃の備蓄が必要な事。」と「自分の身は自分で守る！他人(ひと)任せでは守れない。」と言う事ではないでしょうか。それが難しい要援護者の方には、先ず我が身の安全を確保してから援護するという順番を取らざるを得ません。インフラが途絶えた時に互いに助け合い、協力し合って一人でも多くの人達が非常事態を乗り越えることです。

■ 今年度は、班会開催時に「災害図上訓練 (DIG)」を行っています。すでに3回開催して14の班、合計73人が訓練に参加しました。

参加された皆さんから寄せられた感想です。

「災害に対する意識が高まった。参加して良かった。今日から実行します。」

「防災共助(近助)の重要性、各家庭の健康状況を知る事が必要と分かりました。」

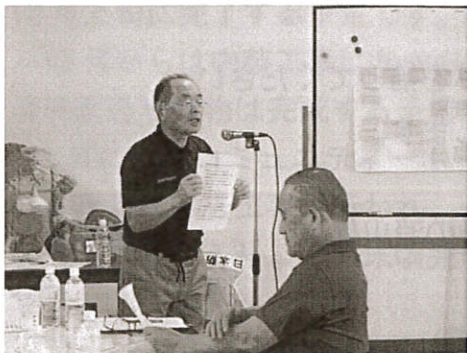
「参加させて頂きとても役に立ちました。日頃の心掛けが大切ですね。」

「いろいろ勉強になりました。改めて訓練が必要だと思いました。」

「参加して、知識不足を痛感致しました。防災士の皆様方ありがとうございました。」等々です。

班会では毎回、講演とDIG訓練の指導を、1丁目在住のNPO法人・日本防災士会の川崎さんとその仲間の方々に協力頂いております。川崎さん達は、感謝の言葉以外は何もお受け取りになりません。誠にありがたい事です。

■ 川崎さんが「災害図上訓練 (DIG) は気づきの訓練です。」と言うように、訓練を通じて自らが「防災や災害発生時にどうすべきか」と言う事に気づき、防災意識を高めて自発的に日頃の備えや防災対策を講じるキッカケにして頂き、地域の連携で災害防止や発生時の共助に繋がれば何よりです。これから班会が予定されている班の皆様が、一人でも多くDIG訓練参加して頂く事を願っています。



左写真は講師の川崎さん。9/16 第3回班会における災害図上訓練 (DIG) の様子。

(文責) 防災部長 南原 学